

新 刊 の ご 案 内

## 『自動車年鑑』2018～2019年版を発売

## 90年にわたる歴史を持つ自動車産業唯一の総合年鑑

**目** 本自動車会議所は、日刊自動車新聞社との共編による『自動車年鑑』2018～2019年版を発売いたしました。

約90年にわたる歴史を持つ本書は、クルマと自動車産業に関するあらゆる情報やデータ、動向などを網羅した『自動車年鑑』本体と、約80の自動車関係団体とその会員企業7,500社以上の代表者、所在地、連絡先を一覧にまとめて収録した別冊『The List』がセットになった、自動車産業全般をカバーした唯一の総合年鑑です。

巻頭企画として、2017～2018年の時事や時勢に則した特集や主要団体・企業のトップ交代情報などを掲載。特集では、「異業種連携が加速する自動車業界」「世界がEVに走る、のは本当か」「揺らぐ信頼、日本のモノづくり」など、注目度の高い内外の話題を取り上げました。

このほか、2017年8月から2018年7月にかけて発売された新型車や特別仕様車などをまとめて掲載した「ニューモデル」、同期間の国内外の業界動向が時系列で掲載されている「自動車産業日誌」など、昨年から今年にかけての自動車産業の動向が一目で分かる企画も多数掲載しています。また、総勢160人以上の主要団体・企業のニューリーダーを紹介。さらに、日刊自動車新聞の記者が国内外の自動車業界の動きを記事や写真、データで解説するなど、国内のみならず、世界中の自動車産業の現状を把握す



るために必要な情報に溢れています。

自動車産業の各分野、業種動向を分析し、さまざまな情報を提供しております『自動車年鑑』は、自動車ビジネスに携わる方々や研究者、行政関係者などの必携ツールとして定評があります。

体 裁 B5判・箱入り上製本  
 ページ数 別冊含め約770ページ  
 定 価 1部 = 2万1,600円  
 (本体価格20,000円 + 税)

送 料 無料

■お申し込みは、

FAX. 03-3578-3883 またはホームページ  
 (<http://www.aba-j.or.jp/order.php>) から



日本自動車会館入館14法人で組織する日本自動車

会館運営委員会(委員長=永塚誠-日本自動車工業会副会長・専務理事、事務局=日本自動車会議所)は9月26日、入館法人間の相互親睦を深めることを目的に、同会館くるまプラザ会議室で日本自動車会館交流会=写真=を開催した。

当日は、入館14法人から130人が来場。会場では工夫を凝らしたゲームを交え、各テーブルで和やかな談笑の輪が広がった。交流会は今回で4回目の開催となり、入館各法人から実行委員を募り、実行委員会が準備から運営までを担当した。

## 交通安全・環境対策発信へ

「トラックフェスタ TOKYO」を開催

東京都トラック協会

**東** 京都トラック協会は9月22、23日の2日間、東京・渋谷の代々木公園で、一般都民らに同協会による交通安全・環境対策の取り組みを広く発信するイベント「トラックフェスタTOKYO2018～親子で体験！安全と環境～」を開催した。各種トラックの展示＝写真＝をはじめ、音楽演奏などのステージや来場者参加・体験型の各種アトラクションなどが繰り広げられ、親子連れなど延べ約2万人が楽しんだ。

23日午前9時から、野外ステージで行われたオープニングセレモニーでは、同協会の浅井隆会長が「フェスタを通じて、トラック輸送業界に対する理解を深め、少しでも親しみを感じていただければ、私たち事業者にとって、これに勝るものはありません」と挨拶。来賓の挨拶に続いて、「安全宣言」と「エコドライブ環境宣言」を行った。

ステージではその後、「『トラックの日』児童絵画



コンテスト」「セーフティドライバー・コンテスト」などの表彰式をはじめ、プロレスラー・蝶野正洋氏によるAED救急救命講座や、警視庁音楽隊とカラーガード「MEC」の演奏・演技、金管六重奏、ジャズダンス、ビンゴ大会などの催しを展開した。

一方、イベント会場ではトラックディーラー各社をはじめとするブース出展や、「子ども安全免許証の発行&職業体験」「荷積み・荷下ろし体験」などのアトラクションや地域名産品の販売などが行われ、会場は終日賑わった。

このイベントは、東京都、環境省、関東運輸局、警視庁交通部、渋谷区、東京商工会議所が後援したほか、警視庁代々木警察署、東京消防庁渋谷消防署が協力し、東京都自動車会議所など33社・団体が協賛した。  
〔東京都自動車会議所〕

## UDタクシーが 大幅に増加

次世代自動車の購入補助件数

東京都の平成30年度上半期実績

**東** 京都はこのほど、平成30年度上半期における次世代自動車の購入補助実績をまとめた。それによると、前年度上半期に比べUD（ユニバーサルデザイン）タクシーの購入補助申請が大幅に増加し、EV（電気自動車）、FCV（燃料電池自動車）の購入補助申請も増加した。

今年度上半期の購入補助実績を車種別にみると、UDタクシーは前年度のゼロから一気に497台へと大幅に増加した。この点について東京都環境局環境改善部の自動車環境課では「事後申請のため今年度上半期に集中した」としている。

またEVは、前年度の26台から84台へ増加し、HV（ハイブリッド）トラックも同じく45台から66台へと増加した。EV・PHVタクシーも2台から4台へと微増に。しかしPHV（プラグインハイブリッド車）は26台から19台へと減少し、FCVバスは3台からゼロとなった。バスと塵芥車は前年度に続きゼロだった。  
〔東京都自動車会議所〕

※都合により、今号は、当会議所HP「新着情報ランキング」は掲載していません。